

はくぶつかんの
部屋 29

博物館で学ぶ、昔の暮らし



寒さも本格的になってきました。今回は、教
育普及活動の一環としてにぎわ
いをみせる社会
科見学について
ご紹介します。

宜野湾市立博
物館には、市内

だけでなく近隣市町村の学校から、毎年
多くの生徒が来館しています。学校によ
って授業の目的や内容に違いがあるので、
事前に先生方との打ち合わせを行い、見
学や体験内容を決めています。

当博物館では、主に「昔の宜野湾のく
らし」を紹介しています。常設展示室に
あるかやぶき屋根の民家や様々な民具を
使って、現在の生活（主に衣食住）と比
較しながら、実物を見て学ぶことで、先
人の知恵や工夫を知ってもらうというね
らいがあります。

また、昔の道具体験も行っております。
クーラ（こきはし）でお米を脱穀したり、
足踏み脱穀機を踏んでみたり、玄米を入
れたピンを木の棒でつくことによつて、
お米のヌカがとれて白米になるという精
米の体験をします。一つの道具やその工
程にも、現在に至るまでの進化があるこ
とを学びます。ものを運ぶ道具として、
バーキを頭に乘せたり、クエーウィキ（肥

桶）を担いだりする体験もあります。時
間の関係で希望する道具体験ができな
かった場合には、改めて来館していただ
くと、職員が対応します。見学後も足
を運んでいただきたいと思います。

他にも、市内の小中学校を対象とした
「出前講座」を行っており、博物館職員
が民具を持って直接学校に伺い、授業を
行っています。

このように博物館では、学校と連携し
た活動を積極的に行っています。子ども
達が民具を直接見て、触れることによつ
て、より楽しく歴史や文化を学んでほし
いです。



▲社会科見学のようす



▲昔の道具体験（出前講座）

企画展開催中！

「新収蔵品展」

「平成25・26年度受入資料」

12月20日（日）まで、入館無料

【お問合せ】

市立博物館 ☎870-93317

茶ぐわーゆんたく

140

ぎのわんのサトウキビ

気温も低くなり、いよいよ冬、サトウ
キビ収穫の時期が近づいてきました。

ここ宜野湾市でも、製糖は戦前の主な
産業であり、多くのムラでサトウキビが
栽培されていました。

サトウキビの収穫は多くの人手を必要
とするため、ムラの人々の共同作業でし
た。たとえば、神山では知念組・中組な
どの親戚や
付き合いの
ある人のグ
ループで行
なっていた
そうです。



▲サーターグルマの作業

設しました。工場は3つの集落から字を
取り「普野城製糖工場」と呼ばれ、大き
なボイラーや釜などの設備が整った場所
で作業を行なっていました。
製糖時期は日々の家事をこなす女性も
忙しかったようです。「朝4時から朝食
の準備をして、後に起きてくる家族に食
べさせたら働かないといけなかった。
サーターの時期が終わるまでは早起し
ないといけないから大変だった。」とい
うお話があります。

戦後も所々にキビ畑があった宜野湾市
ですが、1990年代にはその風景も見
えなくなり、
現在はたく
さんの住宅
が並ぶ街と
なりました。
たまには畑
が広がって
いた景色を
想像し、宜
野湾の原風
景に想いを
馳せてみま
せんか？



▲サトウキビ収穫のようす 1971（昭和46）年

『宜野湾市史』への問合せ
市立博物館 ☎870-93317